

2. 学際的・国際的な学びを育てる教育環境

1) 学部学生の国際化への支援

(1) イタリア短期派遣研修

イタリア短期研修は、2024年9月16日～9月24日（9日間）実施した。参加者は、看護学部から2名（いずれも3回生）、文化学部1名、健康栄養学部1名の計4名であった。昨年から引き続き看護学部教員1名が引率した。派遣先機関はヴェネツィア・カ・フォスカリ大学で、期間中全日程の研修をヴェネツィア本島および周辺地域で実施した。

研修期間を通してイタリア・ヴェネツィア本島に宿泊し、カ・フォスカリ大学日本語学の授業に参加、本島および周辺地域の散策および歴史的建造物の見学などの観光を行った。全期間を通して現地学生との交流を深めたほか、本学が2025年4月に受入れる国際日本学プログラムの広報ならびに今後の交流に関しての意見交換を行った。

日本語学の授業参加に際しては、共通テーマを「年中行事！食と言葉と音楽と～お月見編～」に設定し、日本人と月の文化的背景、箏曲、俳句、月見団子について、綿密な調査および発表準備をして臨んだ。今回はそれぞれの興味や特技を生かして自由に発表内容を準備したため、完成度が高かった。現地で発表するには、高度すぎるのではないかと心配するほどであったが、さまざまな工夫と入念な準備、そして現地学生の高度な知的好奇心が合致して、十分伝わったと思われる。現地受入れにあたった教員の方々からも、昨年の研修の様子をみて全く心配していなかったが、今年も期待通り（以上）であった旨の称賛を受けた。



図1 特技の箏曲について説明する参加者（看護学部3回生）



図 2 積極的な交流（看護学部 3 回生）

全日程ヴェネツィアおよび周辺地域にとどまることにより、学生同士の自然な交流の時間が多く取れ、円安による参加費用負担も抑えることができた。円安下で、多くの学生が保護者らの支援を受けて研修に参加している状況、研修本来の目的（観光ではなく交流）を考えると、1 都市にとどまって海外経験をすることは有意義と考える。

この研修に参加する多くの学生にとっては、これがはじめての海外旅行であり、出発前にはさまざまな不安や、異文化に対する誤解をもっている学生もいる。しかし百聞は一見に如かずで、実際に現地でさまざまな体験をして、自ら乗り越える体験をすれば、それが自信につながり、今後のキャリアにも必ず役に立つと思われる。卒業時期に影響しない程度の短期研修は、看護学部生にとって貴重な学びの機会であり、今後も積極的に参加を促したい。

(2) 必修専門科目による学習機会の提供

令和 2 年度に開講し、令和 4 年度に必修化した「グローバル社会と看護 I」は、毎回異なるテーマについて講師自身の経験とネットワークを駆使し、第一線で活躍する実務家や当事者を招いて授業を展開することにより、学生の視野を広げ、多様な価値観を看護専門職としてどのようにとらえるのかについて学ぶ機会を提供している。また、1 回生が後期に受講することから、進路に迷いが生じている学生にとっては、あらためて看護の役割の幅広さに気づき、自らの進路選択に自信をもつきっかけとなるように心がけている。

令和 6 年度は、紛争地帯で開業する助産師にご登壇いただき、国際社会の中で看護が果たす役割について理解を深めた。ガジャマダ大学（インドネシア）からの短期研修生を授業に招き、全員が研修生と自然に意見交換できる機会とした。（写真）



またこの科目では毎年、経済のグローバル化を背景に起こった薬害エイズ事件を取り上げているが、今回ご登壇いただいた被害者には、被害発生や感染判明の時期が学生と同年代であったことから、その経験やその後の人生で起こったこと、価値観などを淡々とお話しいただいたことにより、薬害の問題をより、自分事として身近に考えるきっかけとなった。



「看護実践能力開発実習」では、期間中に本学を訪れていたインドネシア・ガジャマダ大学からの短期研修生に学内演習に参加してもらい、両国の看護ケア、看護教育について相互に学びを深めた（写真）。

さらに、同実習終盤のまとめ学習では、実習で取り上げた症例に関連する最新の看護研究知見について報告した英語文献の紹介も行った。

(3) 異文化理解看護フィールドワーク開講とインドネシアへの短期派遣研修

令和6年は5年ぶりに異文化理解看護フィールドワークでのインドネシア・ガジャマダ大学への短期派遣研修を実施した。（令和5年度はCOVID-19感染拡大により短期派遣研修は中止となって以降4年ぶりにインドネシアへの短期派遣研修について協定校と協議したが、例年派遣していた時期が令和5年度はラマダンとなること等から、令和6年に派遣研修を実施することになっていた。）

異文化理解看護フィールドワークでは、派遣に向けての準備：インドネシアの医療・生活・言語についての学習とプレゼンテーション、日本・高知を英語で紹介するプレゼンテーション資料作成、海外派遣時のリスクマネジメント研修等を行った後、9月2日から9月10日に、2名の引率教員とともに8名の学生（令和5年度受講生3名、令和6年度受講生5名）がインドネシア・ガジャマダ大学看護学科で短期研修を実施した。

学生間交流では、ガジヤマダ大学の学生に対し、本学の学生がパワーポイントで紹介や高知の様子、日本の医療に関わる課題等を紹介した。また、大学で基礎看護学と救急看護学を担当されている Syahirul Alim 先生に、英語による①インドネシアの医療制度と健康課題、②簡単なインドネシア語とインドネシアの文化について講義を受け、インドネシアと日本の医療・看護の課題の違いについて学んだ。さらに、ガジヤマダ大学のメインの実習病院となるアカデミックホスピタルの見学、保健所見学、市町村の保健活動（この日は高齢者健診）も見学し、日本の病院看護、地域看護との類似点や相違点、対象者の類似点や相違点について学んだ。休日にはガジヤマダ大学の学生達のアテンドで、ムラピ火山のジープツアー、ボルボドゥール遺跡（世界遺産）やクラトンパレス遺跡の見学、マリオボロ散策をした。

参加した 8 名は非常に積極的にインドネシアの人々の生活・文化について学びながら、健康問題や課題についても考察し、ガジヤマダ大学の学生との交流を深めた。

(4) ガジヤマダ大学からの短期研修の受け入れ

令和 6 年 10 月 28 日から 11 月 4 日の期間で、インドネシア・ガジヤマダ大学看護学科学生の高知県立大学看護学部への短期研修を受け入れた。ガジヤマダ大学からは引率教員 1 名、学生 5 名が参加した。研修では以下のプログラムを実施した。

- ・講義：グローバル社会と看護（木下）、日本の医療保険・介護保険制度（川上）
- ・学部学生の授業への参加：英語コミュニケーション（オバーグ）、
看護実践能力開発実習（木下）
- ・高知市保健所見学：前保健所長堀川先生より保健所の概要、生き生き百歳体操の説明
- ・高知医療センター見学：中央手術室看護科長（日本 DMAT 隊員）岡崎氏より大規模災害への取り組み、高知県ドクターヘリの説明と施設見学
- ・もみのき病院見学：インドネシア国籍の看護師 4 名による病院紹介と交流会、ホスピス緩和病棟見学
- ・学生間交流：インドネシア短期研修参加学生 8 名と土佐和紙工芸村での紙漉き体験、
市内散策（高知城、高知城歴史博物館、日曜市等）
※学生間交流については後援会からの補助を受けて実施した。

プログラムに対し、ガジヤマダ大学の学生は積極的に参加し、理解を深めていた。また、本学学生も学生間交流プログラムへの参加だけでなく、放課後や空いている時間に食事や買い物のサポートをするなど交流を深め、現在も SNS による交流を継続している。

(5) 短期・長期留学生への支援

看護学部では、大学の国際交流センター運営委員会で運営している協定校との短期派遣研修への学生参加を支援している。令和 6 年度は、上記のイタリア カ・フォスカリ大学への短期派遣研修に 3 回生 2 名の看護学部学生が参加した他、アメリカ エルムズ大学への短期派遣研修に 2 回生 3 名が参加した。教員が引率しない短期語学研修であるイギリス オックスフォード大学には 3 回生 1 名、1 回生 1 名が参加した。

令和 5 年度に国際交流協定校になったベルギーゲント大学日本学科へ看護学部 4 回生 1 名が、令和 6 年 9 月 18 日～令和 7 年 7 月 5 日の予定で長期留学を開始した。長期留学の準備に向けて支援するとともに、4 回生での長期留学であるため、令和 5 年度から本人と複数回面談し、看護学部での科目履修状況の確認、就職活動や看護研究についての希望を聴取し、教務担当教員と連携して修業年限が 1 年以上は延長しないよう調整した。

令和 7 年 9 月からエルムズ大学看護学部への約 1 年間の長期留学を希望している看護学部 2 回生

1 名に対し、留学前の英語学習支援、相談支援、申請支援等を行い、第 9 回国際交流センター運営委員会（令和 7 年 3 月 18 日）で審査を経て承認された。現在、英語学習支援や留学前の取得単位等についての相談支援等を継続している。

(6) 本学のグローバル教育に関する広報

本学看護学部を中心としたグローバル教育についての取組みは、日本 WHO 協会「目で見える WHO No.91 2025 冬号」でも取り上げられた。

2) 大学院への支援

(1) 国際性を強化する取り組み

看護学研究科では国際化を強化する取り組みとして、下記の 4 つを実施した。

① 「アカデミック・ライティングとリーディング」の実施

大学院学生対象に、海外誌や学会発表支援のための「アカデミック・ライティングとリーディング」（講師：Dr. Lee, Hyeon Ju）を実施、延べ 18 名が参加した。

② 海外文献検索ツール利用の支援

図書課と連携し英文検索ツールの活用について開催される研修会、「Web of Science トレーニング」を 3 回、「EBSCO 講習会」を 2 回実施し、大学院生の参加をサポートした。

② 国際学会への参加サポート

韓国で行われた East Asian Forum of Nursing の学術集会を促し投稿をサポートした。その結果、博士前期課程大学院生 2 名が投稿、採択され、発表を行った。

④ 講演の実施

ガジャマダ大学からの短期研修受け入れ時、医療システムリーダーシップと医療情報学を専門とされている ALIANI 先生の特別講義「Nursing Informatics」を国際的な視野を育成する目的で企画し、大学院生 3 名の参加を得た。